

## 特別講師の紹介

	<p>田上 みさお(たがみ みさお)</p> <p>1979年生れ。チベット語と英語が堪能。高校卒業後インド北西部のダラムサラに行き、チベット文化に魅了される。1997年から九年間にわたりダラムサラに滞在し、チベット人間国宝級のタンカ絵師サンギェ・イエシェー師の下でタンカ絵師としての道を追求める。</p>
<p>2000年にインドのサールナート・チベット大学の絵師であるアレクサンダー・カチャロフ師のタンカ講座の課程を修了した。以来、日印を往来し、タンカ絵師として腕を磨く傍ら、チベット文化の日本での伝播に尽力する。2002年よりチベット語個人レッスンを始め、現在京都・嵐山にて「チベット語教室」も開講中。</p>	

## 【最近の主な活動】

時 間	活 動
2006年3月	「チベット絵画の歴史—偉大な絵師達の絵画様式とその伝統」(著者:David P. Jackson)の日本語版を共訳する。
	

2007年11月23日～12月2日	金沢市にてチベット仏画展を開催
2007年12月18日～12月23日	京都市にてチベット仏画展を開催
2008年2月22日～3月2日	広島市にてチベット仏画展を開催

### 【タンカとはチベット仏教の歴史と精神を凝縮させたもの】

タンカとはチベット特有の仏画である。千年以上の歴史を有する。いくつかの流派に分かれており、田上絵師の属するメンリ派は15世紀に確立された。タンカはお寺から家まで幅広く飾られており、チベット仏教と共にチベット人の生活に浸透している。そのモチーフは如来、仏陀、菩薩、守護神、歴史上の人物、高僧などで、仏教の教義を忠実に且つ分かりやすく表したものである。

### 【タンカを描くことは修行なり】

タンカは木綿の生地の上に岩絵具を使って描く。見た目は華やかにして鮮やかであるが、仏教の教義を忠実に再現することが第一条件なので、厳格なほどの正確さが要求される。格尊格のプロポーションの細部まで細かい規定が定められ、師から生徒へと代々受け継がれていく。習い手はひたすらデッサンを習って三年後に、初めて色塗りの習得が許される。マスターするまで最短で七年かかるといわれている。一枚のタンカを仕上げるのに、一ヶ月以上かかる。

田上絵師は七年目にして、初めて書いた阿弥陀仏のタンカに、ダライラマ法王に魂を入れていただく機会を得た。

### 【ダラムサラでチベット語の勉強―田上絵師の手記より抜粋】

田上絵師は僅か一年間(1997～1998)でゼロからチベット人並の流暢なチベット語を喋れるようになり、タンカを習得する為の障害を排除した。この驚くべき勉強の過程を通じて、一人の少女から女性(おとな)への変身を遂げた。

- チベット語を勉強し始めた頃

「自分が話せるようになる日が永遠に来ないだろうとさえ思った。」

「あの時は自分でも走っている自分の背中に必死についていくといった感じによくそんな夢を見た。」

- チベット語と戦っていた日々

「全てのチベット文字とチベット語を話す人は例え三歳児でも先生だと思った。」

「勉強はまるで、ルールを知らない団体競技に突然参加してプレーするようなものだった。」

「暇さえあればチベット文字を読んで、紙に手当たり次第書き写した。全然内容のわからない会話でも一時間も二時間も聞きつづけた。」

- チベット語を学ぶ過程で得たもの

「言語を学ぶために大切な事は、たくさんのお話ができる、みんなが話したいと思えるような人格を造ることだ。」

「生きるフットワーク、痛いと思う前に立ち上がる、そんなことを、チベット語を学ぶ過程で身に付けた。」

一年後に、チベット語しか話せない大先生の下で、田上絵師はチベット仏画の習得に取り掛かかることが出来た。その頃の彼女は、いろんなことに気づき始めたのであった。

「「癒し」の世界に魅せられているのは単に自分が癒されたいという自己中心な考えに基いている気がした。」

「本当に世界と人々を助ける事がしたかった。それにはまず自分を知らなければならぬ。」

チベットの世界に魅せられて以来 11 年、先日インド・ダラムサラから帰国したばかりの田上絵師は、今われわれをチベットの世界へと案内してくれる。乞うご期待！

以上